

綾子踊 (8月下旬から9月初旬の日曜日(隔年))

(まんのう町)

隔年8月下旬か9月初旬の日曜日 佐文(さぶ)の加茂神社



ある干ばつの年に、弘法大師が綾という里の女に雨乞い踊りを教え、竜王の祠の前で踊らせると、一天にわかにかき曇り雨となり、村人たちは救われたと伝えられ、干ばつの年には村人がこの踊りを奉納して雨を祈ってきました。

笛・太鼓・小鼓・鉦などではやし立てて踊ります。歌詞の中に江戸時代初期の小唄が含まれているのが特色で、一種の雨乞い小歌踊りといわれています。

この踊りを踊ると必ず雨が降るといわれており、その雨を佐文の私雨(わたくしあめ)と呼んでいます。現在は2年に一度、加茂神社で踊られています。令和4年には「風流踊」としてユネスコの無形文化遺産に登録されました。

(国指定重要無形民俗文化財)